

# 建設事業における木材利用拡大に向けた建設実務者の木材に対する意識調査とその検討

福岡大学 学生員 ○高木義人 福岡大学 正員 渡辺浩  
 福岡大学 学生員 清時慶宜

## 1. まえがき

環境負荷の低減がますます重視される今日、木材は環境調和型の建設材料として注目されている。木材は他の材料と比較しても遜色ない性能を持つことから、その利用技術の向上と相まって利用範囲が広がっている。このように建設分野における木材利用は追い風のようにも見えるが、その利用は低位に留まっている。これには、実務者の知識が不足しており、使えるかどうかかわからない、また使い方がわからないという理由も小さくないと考えられる。そこで本報告では、実務者の木材に対する意識や考え方を問うアンケートを実施し、今後さらなる木材利用を進めるための方策について検討する。

## 2. アンケート調査

アンケートではまず木材利用の是非とその理由を、次に木材利用に関する知識と重要度の認識を質問した。対象は2009年12月4日に佐賀市で開催された「木材利用シンポジウム in 佐賀」の出席者である実務者103名である。なお対象がこのシンポジウムの出席者のみであるため実務者全般と比較すると多少の傾向は現れるであろうと考えられる。また比較のため一般市民的な考え方もととえられる者の代表として福岡大学、九州大学、大分大学の学生171名にも同じアンケートを実施した。

## 3. 調査結果

図-1は、公共事業への木材利用についてどう考えるかを質問した結果をまとめたものである。一般人でも半数、実務者では9割が木材を利用すべきと考えていることがわかる。そこで木材を使用すべき、あるいは使用すべきではないと考える理由を質問したところ、図-2および3のようになった。使用すべき理由については実務者、一般人ともに項目1~4のように環境に関する評価が高い。また実務者は社会貢献の視点がある一方で、一般人は見た目や感触が良い等のイメージ的な理由が多いこともわかる。一方で使用すべきではない理由にも項目1のような環境に対する懸念が挙げられており、使用すべきと考える理由と相反していた。これは木材利用に対する正しい認識が実務者、一般人ともになされていないためであろう。また材料供給の不安や設計書の記述など、使用したくても使用できない状況もうかがうことができる。

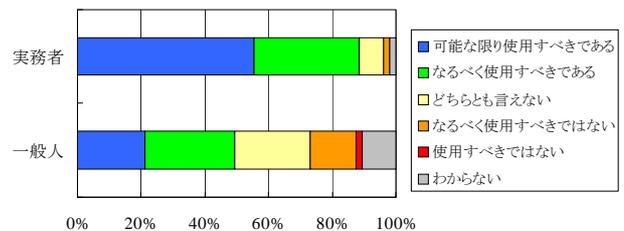


図-1 公共事業への木材利用についてどう考えるかの回答結果

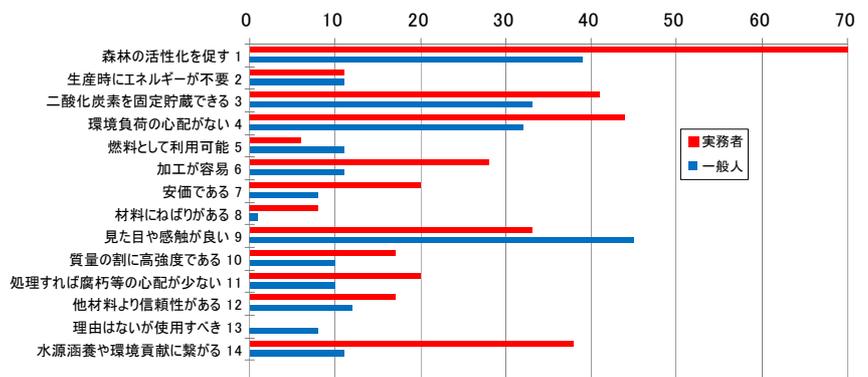


図-2 使用すべきと考える理由

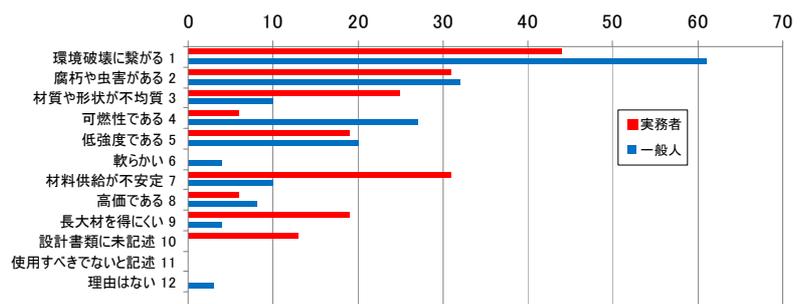


図-3 使用すべきでないと考える理由

次に木材をより良く利用する上で必要となる知識とその重要性について質問した。ここではまず、木材に関する12個の基礎知識について知っているかを質問した後に、数行の説明文を読んだ上でその項目が重要と思うかをさらに質問した。

図-4、図-5はその一例で、それぞれ「地球温暖化防止への貢献」と「新しい木橋とその技術」に関する質問結果である。知っていると答えたのは実務者で4~7割、一般人で2~4割であったが、説明文を読んだ上で重要であると思った方は8~9割を占めた。この傾向は12項目全てに見られ、簡単な知識さえ得られれば大半の人がそれについて関心を持てるということがわかる。これはつまり、木材について学ぶことで知識不足を改善できれば、木材利用の促進を図ることができることを示している。

図-6は上述の12個の質問項目ごとに、各項目の図-4、5下段で重要と思うと回答した人から、上段の知っていると回答した人を引いた値を示したものである。この値は、いふなれば各項目について知らなかったが説明文を読んだ後にそれが重要であると考えに至った人数である。このグラフからその値の変化が如実に表れているのは、実務者の項目4、10、12のような木材に関する性質や技術に関する項目である。これより、図-2において使用すべきである理由の中で多かった項目1、4等の環境保全のみならず、項目2、5、10のように比較的軽視されていた木材の性質といった観点からも、知識さえあれば重要と思う人が格段に増えるということがわかる。ゆえに知識が得られれば、もしくは得られる環境があれば、多方面において木材を活用される場が期待でき、今後木材利用がさらに普及していくであろう。

以上のことより、アンケートを受けた大半が木材を使用したいという意思を持ち、さらに今まで木材の知識が無かった人が知識を得ると重要と認識する結果から、木材について学ぶ教材や教育が充実すれば、今後さらなる木材利用が見込めると推測される。よって木材利用のさらなる発展のためには、木材の知識を容易に得ることができる、より良い環境を作っていくことが必要となる。

4. まとめ

本報告では建設事業における木材利用拡大に向けた建設実務者の木材に対する意識調査をし、その結果を検討するために木材に対する意識や考え方を問うアンケートを実施した。今回の調査から、アンケートを受けた方達の大半が木材について学ぶ教材や教育が充実すれば、今後さらなる木材利用が見込めることを推測できるに至った。よって木材のさらなる利用促進のためには、木材の知識を得る環境を充実させていく必要がある。

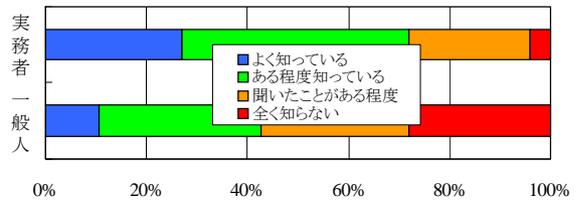


図-4 「地球温暖化防止への貢献」の回答結果

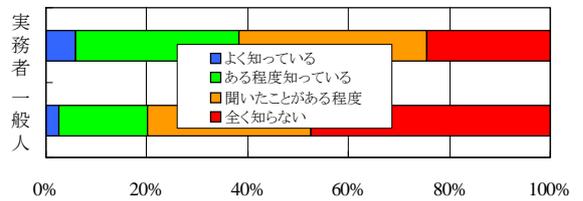
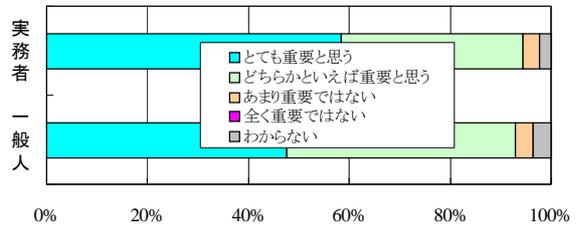


図-5 「新しい木橋とその技術」の回答結果

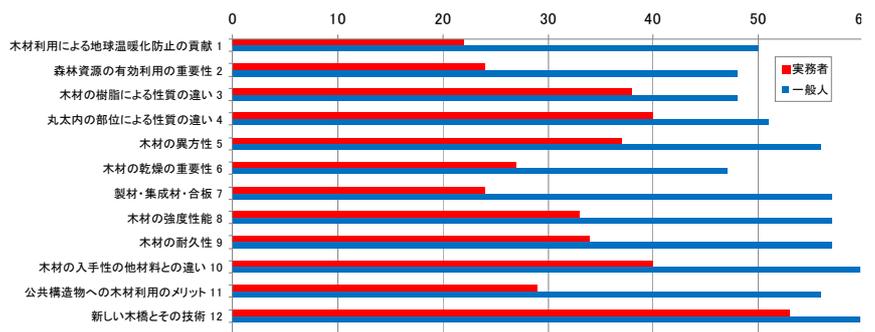
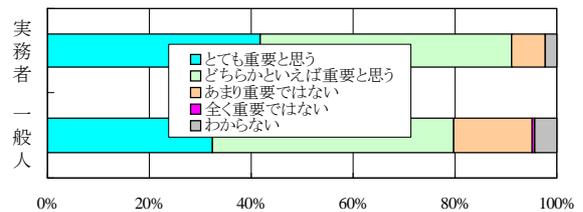


図-6 各知識の説明文を読んだ後に重要だと考えるに至った人数